

防災
特集

コロナ禍

「もしも」のとき、
あなたは自宅に留まりますか

新型コロナウイルス感染症などの感染症が流行している現状では、大人数が集まる避難所へ移動することで、感染症にかかり、かえって自らの健康を脅かしてしまう恐れがあります。「避難」とは、「難」を「避」けることです。「行政が指定した避難場所」、「安全な親戚・知人宅」、「安全なホテル・旅館」、「自宅等の屋内」等、どのような場合にどこへ避難するか、普段から災害時の適切な行動を考えておきましょう。

昭和57年7月大雨による水害(東成区内)

大雨のとき、“被害を少なくするために”

大阪市は、市街地の約9割が平坦な低地で自然排水が困難な浸水しやすい地形となっています。5月20日から21日にかけて降り続いた大雨により、東成区内でも床下浸水被害が多数発生しました。浸水被害を軽減するためには、日ごろの対策が大切です。側溝や排水溝などにごみや落ち葉、土砂などが溜まっていないか、雨どいに土砂や落ち葉が詰まっていないかなど、ご自宅の周辺を点検しておきましょう。もし、ご自宅や周辺に被害等があった場合は、区役所(☎6977-9042)または、その内容に応じて防災マップに記載の各防災関係機関にご連絡をお願いします。

大阪市HP「大雨に備えて」↑

避難情報が見直されました

災害対策基本法の改正を受け、令和3年5月20日から市民の方々がとるべき行動を理解しやすくするため、「避難勧告と避難指示」については、「避難指示」に一本化し、避難勧告のタイミングで「警戒レベル4避難指示」を発令します。これから大雨による災害が発生しやすい時期になりますので、ハザードマップを活用し、身の回りのリスクを確認してみましょう。

↑内閣府防災情報のページ

水害ハザードマップ 東成区

検索

※出典…水害ハザードマップ

適切な避難行動をとるために

台風は、7月から10月にかけて日本に接近・上陸するものが多く、強い風とともに広い範囲に長時間にわたって大雨を降らせます。また、近年、限られた地域で短時間に降る、いわゆるゲリラ豪雨による浸水被害が日本各地で多発しています。風水害が起こる前に、お住まいの地域でどの程度の浸水が想定されるかを **水害ハザードマップ** などで確認し、どのような場合に避難するかを「避難フロー」で確認しておきましょう。

